

演題名：経上腕動脈法での右頸動脈ステント留置術における大動脈弓内操作を伴わないガイディングシースの誘導法-セルリアンカテーテルの有用性-

Guiding-sheath cannulation using a Cerulean catheter for transbrachial right carotid artery stenting without intra-aortic manipulation

演者：

望月洋一 1)、赤路和則 1)、片野雄大 4)、志藤里香 1)、木村浩晃 2)、神澤孝夫 3)、谷崎義生 1)、美原盤 2)

所属：

1) 美原記念病院 脳神経外科

Department of Neurosurgery, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

2) 美原記念病院 神経内科

Department of Neurology, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

3) 美原記念病院脳卒中部門

The Cerebrovascular Division, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

4) 日本医科大学 神経内科

Department of Neurology, Nippom Medical School, Tokyo, Japan

【目的】経上腕動脈法で大動脈を経由することなく 6Fr ガイディングシースを誘導した右頸動脈ステント留置術の 2 例について検討した。

【症例 1】72 歳男性。右無症候性頸動脈頸動脈狭窄症 (NASCET95%) に対してステント留置術を計画した。術前 CT 血管造影にて腹部大動脈瘤および腕頭動脈起始部狭窄を認めたため、経上腕動脈法で大動脈内操作を行わないステント留置術を施行する方針とした。JB2 型カテーテルを用いて 6Fr ガイディングシースを誘導するもガイドワイヤーで右総頸動脈を選択できなかった。ピッグテール型に先端形成した 5Fr セルリアンカテーテルを使用したところ容易に誘導できス

テント留置術を施行し得た。

【症例 2】 66 歳男性。右症候性頸動脈頸動脈狭窄症 (NASCET80%) に対してステント留置術を計画した。術前 CT 血管造影にて両側大腿動脈狭窄および腕頭動脈起始部狭窄を認めたため、経上腕動脈法で大動脈内操作を行わないステント留置術を施行する方針とした。症例 1 と同様にピッグテール型に先端形成した 5Fr セルリアンカテーテルを使用したところ 6Fr ガイディングシースを容易に誘導できステント留置術を施行し得た。

【結論】 経上腕動脈法での右頸動脈ステント留置術における大動脈弓内操作を伴わない 6Fr ガイディングシースの誘導では、ピッグテール型に先端形成した 5Fr セルリアンカテーテルが有用であった。